

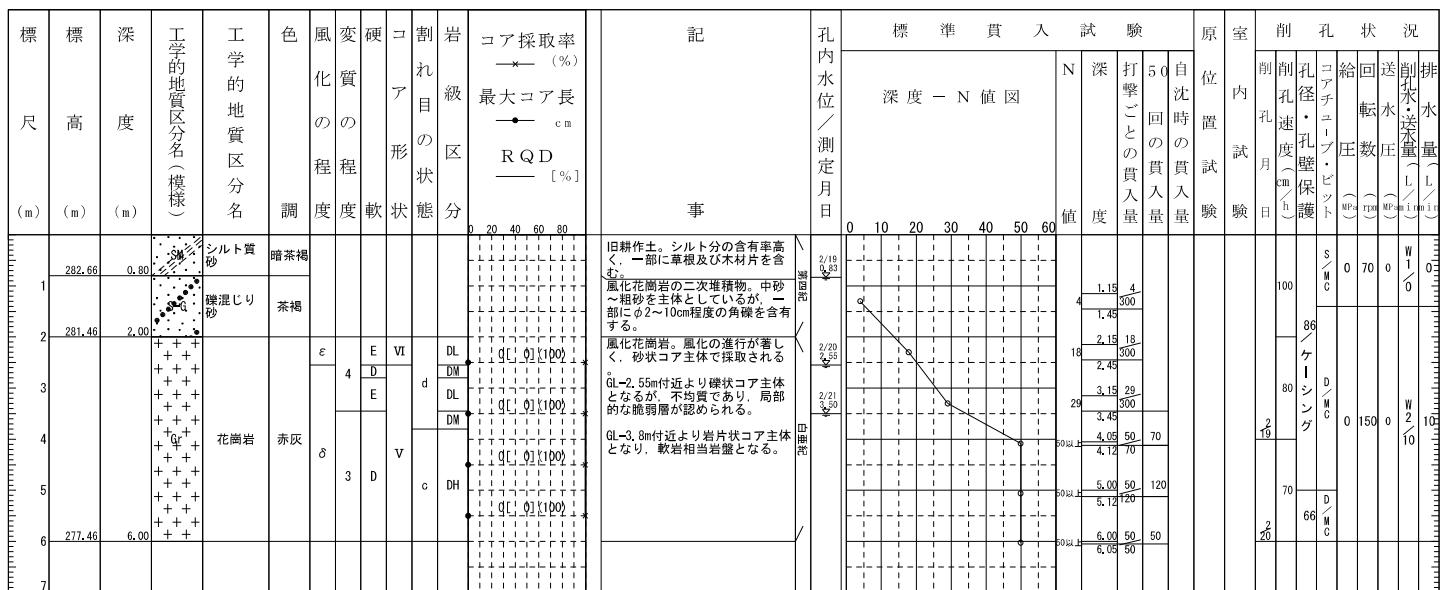
岩盤ボーリング柱状図

調査名 主要地方道廿日市佐伯線道路改良事業に伴う測量設計業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象 道路 橋梁・高架

ボーリング名	Boring No.2			調査位置	広島県廿日市市					北緯	34° 21' 35.5164"	
発注機関	広島県西部建設事務所廿日市支所					調査期間	平成30年2月14日～平成30年2月20日			東経	132° 13' 58.6709"	
調査業者名				主任技師				現場理人	コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 283.46m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°	使用機種	試錐機 YBM-05D型			
総掘進長	6.00m						エンジン ヤンマーNFAD8	ポンプ GP-3型				



<凡例> コア硬軟区分判定表

硬軟区分	
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでボロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア割れ目状態判定表

割れ目状態区分	
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

備考

風化区分表

風化の程度	
w1	非常に新鮮である。
w2	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
w3	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
w4	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
w5	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

変質区分表

変質状況	
h1	非変質
h2	弱変質
h3	中変質
h4	強変質

記号 実質組織を完全に残し、変質程度が低いもの。
 h1 非変質
 または、非変質部の割合が内眼で50%以上のもの。
 h2 弱変質
 内眼で変質が進んでいるが判断できるが原岩組織を明瞭に残し、原岩判定が容易なもの。
 または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
 h3 中変質
 岩片等変質部で完全に置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。
 h4 強変質

コア形状区分判定表

コア形状	
I	長さが50cm以上の棒状コア。
II	長さが50～15cmの棒状コア。
III	長さが15～5cmの棒状～片状コア。
IV	長さが5cm以下の棒状～片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V	主として角礫状のもの。
VI	主として砂状のもの。
VII	主として粘土状のもの。
VIII	コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)